

●絵本文化「世界へ発信

「木城えほんの郷(さと)」のパンフレットに、
こう記されている。

「えほんの郷のある石河内には、太古のむかしから大きな亀が眠っていることを知っていますか。九州山脈の山々の連なりの方にのんびりと首をのびし、空にとどくほどの大きな甲羅の上に松の林やカシの木の森をのせて静かに眠りつづけているのです」

木城町は宮崎県のほぼ中央に位置し、総面積の80%が険しい山岳地帯。「木城えほんの郷」は町の中心地から県道を約十二^{キロ}奥に入った石河内地区にある。小丸川を挟んで対岸は武者小路実篤が開いた「日向新しき村」。静かで豊かな自然が広がる。

オープンは一九九四(平成六)年四月。豊かな自然の中で、子どもたちの感性をほぐくむ、揺りかごの役割を果たしたい、という願いから

のスタートだった。

山あいの扇状地に開けた二万四千平方^{メートル}の広い敷地。そこに、緑の木々に包まれた施設が点在する。

まず「森のえほん館」。絵本美術館と絵本図書館の要素を持ち、年間を通して国内外の作家の原画展やえほんの郷のコレクションの企画展を開いている。木の感触が心地よい「えほんの部屋」には、世界の色とりどりの絵本約一万二千冊が備えられ、風のそよぎや小鳥の声とともに、ゆつたりと絵本を楽しむことができる。土曜、日曜日には、絵本の読み聞かせやお話し会が行われる。

全国有数の内容とスペースを持つ絵本と児童書の専門店「森のほんやさん」。ブックアドバイザーがいて、本についての相談に気軽に応じてくれる。軽食もある「森のコーヒーやさん」は

オリジナルメニューが評判。宿泊施設としてコーナーも六棟あり、リピーターの利用が多い。

ユニークなのは、水に浮かぶように大きな池に造られたステージ。ここで星を見る会、月夜のお話し会などさまざまな催しが企画されている。その一つが毎年、秋の新月や満月の夜、星明かりや月明かりの中で行われるコンサート。日本の第一線で活躍するミュージシャンが出演、風や水の音と共演しながらの演奏は雰囲気もゴージャス。夏に開くスウェーデンやフィンランドなどの北欧の演劇公演とともに全国から多くのファンを集めている。

小さな空間から、世界に向けての絵本文化の発信。その芽は着実に山の村に根を張っている。

森 一代



豊かに時を刻む「木城えほんの郷」。絵本文化を世界に発信する